介護技術講習会の現状と今後の課題

福　原　裕　子

美作大学・美作大学短期大学部紀要（通巻第53号抜刷）

美作大学・美作大学短期大学部紀要
2008, Vol. 53. 57 ～ 61

報告・資料

介護技術講習会の現状と今後の課題

The present conditions and tasks in a care technical school

福　原　裕　子

キーワード：介護技術講習会、介護福祉士、介護福祉士会

1. はじめに

高齢化の進展とともに、複雑・高度なニーズや多様な価値観に応える質の高いサービスが求められるようになり、1987 年に介護福祉士が誕生した。

介護福祉士の資格取得方法は、養成施設を卒業すること、または 3 年以上介護等の業務に従事した者等が介護福祉士国家試験に合格することの２つである。また、国家試験は筆記試験と実技試験から成り立っている。国家試験の実技試験については、近年受験者が急増していることにより、試験実施担当者の確保や、統一的な採点精度の確保が難しくなっている。また、課題漏洩防止の観点から、受験者の長時間にわたる拘束に伴う受験者及び試験要員等双方に相当の負担がかかっている。このような背景から、実技試験に変わる制度として、実技試験免除のための介護技術講習会が平成 17 年度より導入されることとなった。本学においては、平成 18 年度から介護技術講習会を実施している。

そこで本研究では、より効果的で質の高い講習会を実施していくことを目的に、平成 18 年度および平成 19 年度に実施した講習会の内容を報告すると共に、講習会受講者に実施したアンケート調査結果をもとに今後の課題を明らかにする。

2. 介護技術講習会とは

介護技術講習会導入の趣旨は、介護福祉士試験の受験者の質の向上及び介護福祉士実技試験の適正実施に資することとするものである [1]。また講習会のねらいは介護技術講習を通じて、受講者が介護過程の展開を踏まえて介護技術の基礎を再確認し、その技術を評価することによって、受講者の介護技術の向上を図るために行うことである [2]。介護技術講習会の位置づけを、図１に示した。国家試験受験者は、介護技術講習会を修了した後に筆記試験を受験するか、筆記試験合格の後に実技試験を受験する方法のいずれかを選択できる。講習会を修了したものについては、続いて行われる 3 回の実技試験が免除となる。

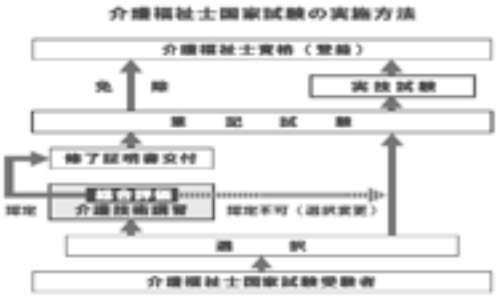

図１　講習会の位置づけ

介護技術講習会の内容と時間数を表１に示した。また、講習会における主任指導者および指導者要員は、1 クラス 40 名以下に対して、講義は主任指導者が行い、演習は主任指導者 1 名、受講者 8 名に対して 1 名の指導者が配置される。

3．本学の実施状況

本学では表２に示すように、平成 18 年度２回、平成 19 年度３回の計５回講習会を実施した。主任指導者および指導者は、本学専任教員１名を除き全て岡山県介護福祉士会へ依頼した。講習会開催のための広報は、大学及び介護福祉士養成施設協会ホームページにて行い、応募者が多数あったため、はがきによる抽選方式で受講者を決定した。平均倍率は 2.9 倍であった。

また、講習会における修了不認定者には半日ないし１日の補講を実施した。修了者は平成 18 年度は 61 名、平成 19 年度は 71 名で計 132 名である。２年間での非修了者は２名、途中棄権者１名で、過去２年間の修了の確率は 97.8% であった。

表１　内容と時間数（32 時間）

項目	講義及び演習内容	講義（h）	演習（h）	合計（h）
介護過程の展開	①介護における目標等 ②事例に基づく介護過程	2.5	3.5	6.0
コミュニケーション技術	コミュニケーションの技法	1.0	1.5	2.5
移動の介護等	①社会生活維持拡大への技法 ②安楽と安寧の技法	1.0	5.0	6.0
排泄の介護	排泄の介助	1.0	3.0	4.0
衣服着脱の介護	衣服の着脱の介助	1.0	2.0	3.0
食事の介護	食事の介助	1.0	2.0	3.0
入浴の介護等	①入浴の介助 ②身体の清潔の介助	1.0	3.0	4.0
総合評価	全項目における講習内容の修得に係る評価			3.5

表２－１　本学の実施状況（平成 18 年度）

期間	定員	受講者（修了者）	指導者	備考
平成 18 年 8 月 5 日・6 日・12 日・13 日	40	40 （38）	専任教員主任１名、介護福祉士会より主任３名、指導者４名	補講８名 非修了２名
平成 18 年 10 月 14・15 日・21 日・22 日	24	23 （23）	専任教員主任１名、介護福祉士会より主任１名、指導者４名	補講４名 キャンセル１名

表２－２　本学の実施状況（平成 19 年度）

期間	定員	受講者（修了者）	指導者	備考
平成 19 年 5 月 26 日・27 日・6 月 2 日・3 日	24	23 （23）	専任教員主任１名、介護福祉士会より主任２名、指導者３名	補講３名 キャンセル１名
平成 19 年 6 月 30 日・7 月 1 日・7 日・8 日	24	24 （23）	専任教員主任１名、介護福祉士会より主任２名、指導者４名	補講３名 途中棄権１名
平成 19 年 9 月 8 日・9 日・15 日・16 日	24	25 （25）	専任教員主任１名、介護福祉士会より主任１名、指導者３名	補講５名

4．研究方法

1）対象：本学介護技術講習会受講者（途中棄権１名を除く）134 名（男 10 名、女 124 名）

2）方法：各講習会最終日に質問紙による調査を実施した。回収率は 100％であった。様式は事務提要[3]に示された標準型を使用した。質問内容は、性別・年齢・所属と、意見・要望等の自由記述（①会場等について・②講義について・③実技演習について・④その他）である。

5．結果及び考察

1）対象者の属性について

性別では、男性 10 名（7.5％）、女性 124 名（92.5％）と圧倒的に女性の受講者が多い。年齢別では、図２のとおり 40 代が 31 名（24％）と最も多く、10 代、50 代が次に多い。所属は図３に示した。介護老人福祉施設 39 名（29％）、訪問介護事業者 19 名（14％）、療養型病床群など医療施設 14 名（10％）、介護老人保健施設６名（4％）、障害者施設は０であった。その他 58 名（43％）の内訳は、学生、グループホーム、通所施設、保護施設、軽費老人ホーム、医療事務、無職であった。

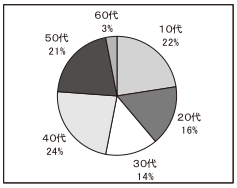

図２　対象者の年齢

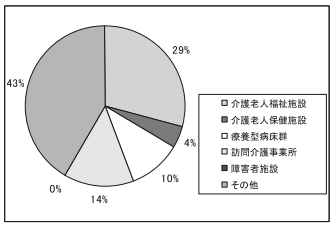

図３　所属

2）講習会場に関する意見ついて

講習会場に関する意見としては、きれい（38 名）、近くて通いやすい（26 名）、設備が良い（19 名）とあった。その他少数意見では、会場の広さが、広い・も

う少し広い方がよい・ちょうど良いとあった。また、遠い、場所が分かりにくい、トイレの数が少ないという意見もあった。

3）講義について

自由記述のアンケート結果を、時間・内容・講師に関する項目にカテゴリー化し、内容別に満足したと思われる意見と、要望等に整理し、表3に示した。

表3　講義について

時　間	
満足	・短い時間でしたが分かりやすく良かった（2） ・休憩もいい時間で入り、無理なく受けられた（2） ・時間を配慮してくださって良かった（1） ・1時間くらいでいつも終わっていたので楽だった（1） ・ゆっくりと講義をして下さり良かった（1）
要望等	・もう少し日数があれば良い（2） ・短時間で、ポイントをまとめるのが難しかった（1） ・早く覚えないといけないことも多く大変（1） ・詰め込みのためペースについていくのが精一杯だった（1） ・早すぎてついていけなかった（1） ・短期の講習会なのでもっと勉強したかった（1） ・重要箇所の説明はあったが、少しゆとりが欲しかった（1）
内　容	
満足	・ポイントが押さえられて良かった（5） ・テキストを用いての講義が良かった（3） ・分かりやすく今後の勉強に生かしたい（2） ・知らない介護方法が知れて良かった（2） ・基礎的なことを再確認させていただいた（1） ・根拠の大切さが良くわかった（1） ・介護についての原点から教えてもらった（1）
要望等	・勉強することが多く難しい（3） ・もっと教わりたい（1） ・ボディメカニクスをもう少し詳しく理解したい（1） ・もっと奥深い部分、老人の心理等の話も聞きたかった（1） ・アセスメント、介護過程の書き方を教えて欲しい（1） ・すごく細かかった（1）
講　師	
満足	・熱心に説明していただき分かりやすかった（1） ・大切なところを分かりやすくアドバイスして頂いた（1） ・丁寧で分かりやすかった（1）
要望等	・早口でしたが（駆け足）実技に時間を掛けるため仕方ない（1）

時間については「短時間である」「ペースについていくのが大変」と時間の不足を訴える意見が多数を占めた。受講者の学習背景は多様で、介護経験にも差がある。しかし、講習会の各項目の講義時間は、表1に示したとおり、介護過程の展開2.5時間、その他は1時間と限られており、ポイントを絞った講義が求められる。

次に内容については、「ポイントを押さえられて良かった」が最も多く、「今後の勉強に生かしたい」「基本が分かってよかった」「知らないことが多く改めて勉強が必要だと実感した」などの意見から、基本の重要性が実感できたのではないかと思われる。一方、「もっと教わりたい」「詳しく聞きたい」という意欲的な意見もあり、これらは講習会が学習意欲を刺激した結果と思われる。

また、講師については「分かりやすかった」「丁寧」「熱心」という意見が多数を占め、概ね良い評価が得られた。

4）実技演習について

時間・内容・講師に関する項目に指導方法の項目を加えカテゴリー化し、それぞれの意見を表4に示した。

表4　実技演習について

時　間	
満足	・4日間ともスムーズに運び良かった（1） ・演習の時間を多くとって頂き、体を使って理解できた（1）
要望等	・時間的に少し足りなかった（2） ・とても時間が早く感じた（2） ・もう少し練習時間をとって欲しかった（1） ・短時間で多くのことを覚えるのが大変だった（1）
内　容	
満足	・基本が学べてこれからの介護に役立つ（5） ・今後の勉強に生かしたい（3） ・細かいところまで基本が分かってよかった（3） ・忘れていたことを思い出したり、知らなかった用具もあり勉強になった（2） ・基本動作の難しさを知った（1） ・基本に基づいた演習は勉強になった（1） ・アセスメントでは皆の意見が聞け、勉強になった（1）

要望等	・ 難しかった（4） ・ 疲れました（1） ・ もう少しゆっくり演習について説明して欲しかった（1） ・ 学校で習うこととは全然違うので大変だった（1） ・ わかりやすかったが自分の復習が足りなかった（1） ・ 覚えることが沢山あって大変だった（1） ・ 駆け足の実習で覚えるのが精一杯で気持ちだけが焦った（1）
指導方法	
満足	・ 毎回小テストがあったのが良かった（3） ・ 少人数で何回も練習出来てよかった（2） ・ 少人数でグループ毎に先生がついて下さったので質問もしやすくきちんと理解できた（2） ・ 何度も繰り返したのでよく頭に入った（1） ・ 細かいところまで詳しく実技教えてもらい良かった（1） ・ 論理的に考えるようにと指導を受けたがその通りだと思うし、そう考えれば失敗も少ないと思う（1） ・ わからなくてもその場でアドバイスを下さるのでためになり、身に付き良かった（1） ・ 最初に先生のデモを見て分かりやすかった（1）
要望等	・ 小テストが演題ごとにあったので、緊張のし過ぎで神経が磨り減った（1） ・ 実技がなかなか出来ず、先生方に少し時間があれば、時間外に少し演習をさせて頂ければと思った（1） ・ 先生や状態の分かる人がモデル役をして１人ずつチェックして下さるともっと分かりやすいと思った（1） ・ 指導内容が経験したことがあまりなく、精神的な負担が多くて戸惑ってしまった（1） ・ テキストと少し違っているところがあり、細かいところで少し戸惑った（1） ・ ポイントポイントを丁寧に教えてください（1）
講　師	
満足	・ とても熱心に教えてくださり気持ちが伝わってきた（1） ・ 自分の出来ない所を指摘して頂けたので良かった（1） ・ 指導者が変わっていくというのも自分にあった指導が見つかるので良かった（1） ・ 先生によって着目点あり、色々勉強になった（1） ・ 色々な先生に教えていただきましたが、みんな同じような指導なので安心してできた（1）
要望等	・ 統一した指導をして欲しい（2） ・ 指導者によって教え方が少し違っていた様に思った（2） ・ 講師によって教え方の違うところもあり、混乱したこともある（1） ・ 「時間がないので省きます」と言われることが多かったので、試験に出ないにしても少し不安だった（1） ・ 厳しかった（1） ・ 先生のボソッと言われる言葉を気にされる方がいた（1）

時間については、「足りない」「もう少し練習時間をとって欲しい」の意見が多くあった。この点については、表１に示したように、演習時間は講義よりも長いものの、時間の経過が早く感じられた様子が伺える。本学の事例演習においては、１ベッドに４～６人の受講者をグループ分けすることで、受講者１人当たりの演習時間の確保と、きめ細かい指導の充実に努めたが、時間においては満足が得られた意見は少数であった。

次に、内容については、「とても勉強になった」が特に多く、「基本が学べてこれからの介護に役立つ」「基本に基づいた演習は勉強になった」といった意見も多数あった。しかし、「難しかった」「疲れた」「大変だった」という意見も多数あり、演習の場面では、自分が思うように技術の修得が出来ないことへの葛藤があるように思われる。

指導方法では、事例ごとに確認のための小テストを取り入れた。その点について「小テストがあったのが良かった」「小テストがあったので緊張しすぎた」と意見が分かれた。また、「少人数で何回も練習出来て良かった」「その場でのアドバイスが参考になった」「苦手なところを繰り返し指導していただきありがたかった」など、小グループでの指導に満足したという内容が多かった。少数であるが、「テキストと違っているところがあって戸惑った」「ポイントを丁寧に教えてください」という意見もあった。

講師については、「分かりやすかった」「丁寧」「熱心」という意見が非常に多くみられた。また、「先生によって着目点の違いがあり、勉強になった」「指導者が変わっていくというのも自分に合った指導が見つかるので良かった」という肯定的な意見と、「指導者によって教え方が違って混乱した」「統一した指導をして欲しい」という否定的意見が挙げられた。前述したように、１回の講習会では複数の主任指導者および指導者が関わる。また、指導者は演習項目ごとに受け持つ担当グループを入れ替えて指導する演習形態をとるため、指導の統一性が十分図れていなかった点も要因と思われる。

5）その他の意見

講習会への不安や焦りの気持ち、講習が進んでいくにつれて出来るようになる喜びの声などがあった。また、「自分自身が出来なかったことが悔しい」「習得した内容が試験で生かせなかったのが残念」という反省の声も多かった。

6．今後の課題

本研究から、より効果的で質の高い講習会を実施するためには、まず時間を有効活用すること、更に、複数の講師が統一した指導を行うための連携が必要であることがわかった。

1）指導内容の充実

受講者は大変熱心であるが、介護経験の年数や内容が多様で、年齢層も 10 代から 60 代と幅広い。このような受講者に対し、より時間を有効活用した効果的な講義および演習の方法について検討していかなくてはならない。この点については、まず、早朝・放課後に自主練習の時間を設け、アドバイザーとして講師を配置すること、次に、事例演習においては、講師を増員し受講者に応じた指導を行う体制を整えたいと考えている。また、介護技術の基礎を再確認し、技術の向上を図るためには､単に介護の手順を覚えるのではなく、根拠を理解し考える介護が出来ることを目指し、指導にあたる必要があると考える。

2）岡山県介護福祉士会との連携

本学の講習会における講師は筆者を含め全員が介護福祉士である。今後は、さらに岡山県介護福祉士会との連携を図り、事前打ち合わせや研修会を継続的に実施していきたいと考える。同会では、主任指導者養成講習を修了したものが講師となり、指導者を養成した経緯がある。さらに、組織として平成 19 年度には、技術指導部を立ち上げ、講習会の充実に向けて体制を構築している段階にある。今後は、筆者も所属する技術指導部を中心に指導体制の充実に努めていきたい。

7．おわりに

現在、国会では社会福祉士及び介護福祉士法の改正に向けて審議が行われている。その主な改正点の 1 つが、冒頭に述べた介護福祉士資格取得方法の見直しについてである。1 つは養成施設卒業後に国家試験を課す方法、もう 1 つは実務経験 3 年以上に加え 6 ヶ月の養成課程を経る方法となる方向にある。つまり、専門教育と国家試験の両方が義務付けられることになる。国家資格としての高い専門性と、質の向上を求められている今、国家試験に値する介護技術講習会に課せられた役割を重く受け止め、今後も質の高い講習会を実施していきたい。

引用文献

1）「社会福祉士及び介護福祉士法施行規則の一部改正について（通知）平成 16 年 10 月 19 日社援発第 1019004 号」

2）財団法人社会福祉振興・試験センター、『介護福祉士国家試験・実技試験免除のための介護技術講習指導マニュアル』、2004 年、p2

3）社団法人日本介護福祉士養成施設協会、『介護技術講習会実施事務提要』、2005 年、p110